

# 十和田市立 新渡戸記念館だより



## 稲生川上水147年記念企画展 展示資料から

資料名：北方絵図  
年代：寛政7年(1795)



▲現在の青森県から北海道沿岸部分

寛政5年(1793)に松前藩が幕府に提出するため作成した図面を、同7年に書き写したものです。北海道を中心に対岸のユーラシア大陸海岸部、下北半島などが記載されています。平成17年7月1日(金)～8月31日(木)まで開催した稲生川上水147年記念企画展「1995～2005 修復完了資料展」では、平成15年度軸装資料として展示しました。(企画展詳細は3面)

### デーリー東北へ連載の記事

## 『稲生川・水の旅路』を冊子として刊行!

太素顕彰会では、十和田市立新渡戸記念館で平成17年1月6日(木)～3月31日(木)までの毎週木曜日、デーリー東北に13回連載した記事『稲生川・水の旅路～静かな流れが秘める苦闘の歴史』に加筆し、冊子として9月27日(火)に刊行します。

(冊子の問い合わせは新渡戸記念館へ)

冊子表紙▶



あおもり県民カレッジ手帳持参の方は観覧料無料

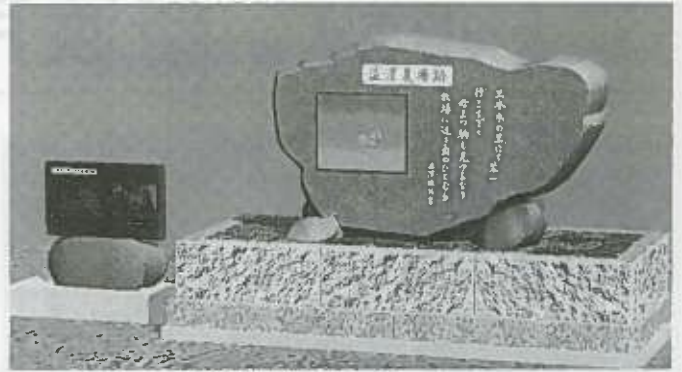
期間:10月1日(土)～30日(日)

※十和田市民は常に無料です

明治期から戦前の三本木原開拓を担った

# 渋沢農場の記念碑建立

新渡戸傳の志を受け継ぎ、明治時代から戦前までの三本木原開拓を担った渋沢農場の歴史を後世に伝えるため、同農場事務所跡地〔東二十一番町（前谷地）〕に記念碑が建立されました。渋沢農場は、実業家渋沢栄一が明治23年（1890）に開設し、昭和27年（1952）に解散するまで、約60年にわたり農場経営を通じて地域の農業の発展に貢献しました。8月6日(土)に行われた除幕式には当館館長も出席し、関係者約100人が記念碑の完成を祝いました。記念碑は、元入植者を中心に組織した同碑建立委員会の呼びかけで集められた市民の寄付で制作され、正面には渋沢栄一のひ孫・渋沢雅英さんの揮毫による栄一作の和歌が、裏面には農場の歴史や、募金協力者約180人の名前が刻まれました。



▲石碑の表には開拓風景を描いたレリーフとともに、渋沢栄一が十和田を初めて訪れたときに「三本木の里にて」と題して詠んだ和歌「行きすぎて 母まつ駒も見ゆるなり 牧場に近き岡のひとむら」が刻まれています



▲除幕式参列者記念写真

## 博物館実習生レポート

—10日間の実習を終えて—

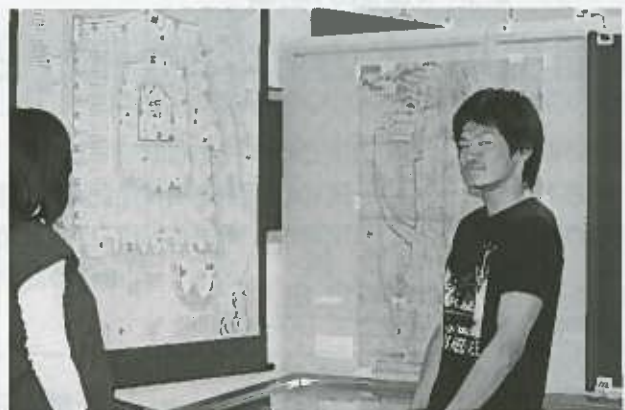
平成17年度の博物館実習では常設展示改善と、企画展「1995～2005修復完了資料展」の展示補足資料を作成してもらいました。

北里大学獣医畜産学部  
生物生産環境学科4年生 土屋直裕

私が十和田市立新渡戸記念館を実習先として選んだ理由は、地域との密着性が強いという点に強く惹かれたからです。私が子供のころよく友達と遊んでいた場所のひとつに、子供たちがパソコンなどを使って歴史を知ることができる博物館施設があり、そこで過ごした時間はとても良い思い出として残っています。実習中、記念館に地域の子供たちが遊びに来て、館内でパソコンを使って遊んだり、武将コーナーにある鎖帷子の重さ体験ジャケットを着ていたり、お盆前ということで、時には太素塚のお墓掃除を手伝う姿もみられました。課題の展示改善を考えていたとき、子供たちに館内の改善してほしい点を聞いたところ、私が予想していなかった子供の視点での意見を聞き、驚きを感じました。そんな子供たちも私にとっては良き先生だったと思います。

また、実習を通して、新渡戸記念館は館内だけでなく、館外の景観を美しく整備することにより地域の方々から愛され、憩いの場となっていると感じました。そして、毎日の清掃や年に一度のお墓清掃などを行い、常に利用しやすい環境を作り出すことが重要であるということに気づかされました。今後自分の地元の神社や寺院、公園などにおける清掃のボランティアをする機会があれば、ぜひ参加したいと思っています。

今回の実習で学んださまざまなことを生かし、これから社会人として物事を色々な視点から見て考えるようにしていきたいと思っています。最後になりましたが、十日間、記念館の職員の方には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



◀実習中の土屋直裕さん

## 稲生川上水147年記念企画展

### 1995～2005 修復完了資料展 —10年の成果—

平成17年7月1日(金)～8月31日(水)

平成7年(1995)から三本木原開拓資料や新渡戸稲造関係資料をはじめとする当館所蔵資料のうち、修復が必要と思われるものについて、裏打ちや表具直し等を行ってきました。企画展では作業着手から10年の成果として、修復によって展示可能となった資料を公開しました。

## 修復作業「裏打ち」の紹介

裏打ちとは、薄い紙の資料に後ろから和紙をはり、補強することです。絵図面など大型の古文書には、何枚もの紙をはりあわせた大きな紙が使われており、年月とともにそのはり合わせ部分がはがれてバラバラになっていく危険性があります。裏打ちをすることによってそれを予防することができ、破れなどの損傷を補修することも可能で、保存に適しています。

今回の企画展では、裏打ちの終了した実際の資料を展示するとともに、「裏打ちとは？」と題して裏打ちの工程を写真で解説しました。



◀裏打ちを紹介したコーナー

## 今後の課題 ～書籍の修復～

当館では、新渡戸家が代々収集してきた書籍数千冊を所蔵していますが、蔵書の中には長い年月の間に虫喰いや破れが生じていたり、ページを綴じている糸が切れていたり、湿気や乾燥によって紙がもろくなっている書籍があります。こうした書籍は無理に取り扱くと、さらに損傷を大きくする可能性がありますので、そのままでは表紙を開くこともままなりません。今後は、専門の職人に頼んでこうした書籍の修復を行う必要があります。

展示では修復され閲覧が可能となった書籍とともに、修復を必要とする破損した書籍を紹介し、見学者に書籍修復への理解を深めてもらいました。

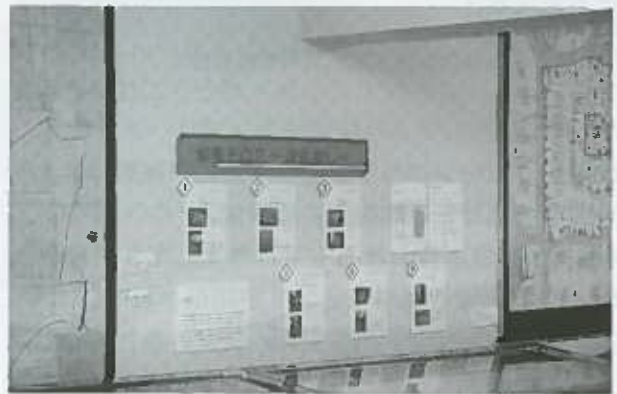


◀三本木原開拓や新渡戸稲造に関連する資料だけではなく、修復が完了したさまざまな所蔵資料を展示する機会となった

## 新渡戸稲造旧蔵書の劣化

大正14年(1925)新渡戸稲造博士は蔵書約1万冊を、当地の文化向上のために寄贈され、それをもとにして設立した「私設・新渡戸文庫」が当館の前身になっています。しかし寄贈された蔵書の中には質の悪い酸性紙が使われた明治期の書籍が多く含まれ、一部はかなり劣化が進んでいます。

劣化が進み、閲覧不能となっている新渡戸稲造旧蔵書の一部を展示したところ、見学者から修復を強く望む声が聞かれ、早急な対処が望まれています。



◀表具直しが終わった資料とともに、その工程を紹介

## 深刻な酸性紙の問題

明治時代に入って、和紙にかわり洋紙が書籍の材料として取り入れられました。この洋紙は木材パルプを使って製造するため、和紙に比べて安価ですが、紙の強度が弱く、さらに当時インキのにじみ止めに使われていた酸性の薬剤が紙を劣化させる問題が起きています。現在1000年前の和紙がしっかりした状態で残っているのに対して、約100年前に新しい技術で大量に作られた酸性紙は、すでに粉々になってしまうほど急激に劣化しています。酸性紙の問題は、この時代の歴史遺産が空白状態になる危機もはらんでおり、現在劣化していく資料の内容をデータで残したり、紙の中の酸を中和する脱酸(だっさん)処理を行う必要性が世界的にさげばれています。

### ありがとうございました

#### 草花の提供

- 7月に市内在住の鈴木すゑさんからバイカイカリソウの鉢植えをいただき太素塚境内に植栽しました。
- 8月に太素塚近くに在住の花巻惣吉さんからクルマユリの鉢植えをいただき、太素塚境内に植栽しました。
- 8月に市内在住の沢口騏三夫さんからホテイアオイとミズアオイを提供いただき、太素塚境内の池に植栽しました。池に浮かべられた緑と紫の花が、夏の太素塚に涼しげな風情を加えていました。



▲いただいたクルマユリ

### 関連情報

#### ◆太素塚清掃奉仕

7月4日(月)・8月1日(月)・9月4日(日) 本瀬戸山老成会 様  
ありがとうございました

#### ◆東北電力グリーンプラザ主催の「新渡戸稲造の武士道展—世界を駆けた日本の心」展開催

2005～6年を日本におけるドイツ年として、日独協会が中心となり全国各地でイベントが開催されています。東北電力グリーンプラザ（仙台市）では、仙台日独協会の特別協力により、本年10月12日(水)～11月13日(日)、新渡戸稲造とドイツの関わりに特にスポットをあてた企画展「新渡戸稲造の武士道展—世界を駆けた日本の心」展の開催を予定しています。当館からも稲造直筆の書をはじめ、愛用品等を貸し出し、新渡戸稲造の今日的意義について紹介する「今に生きる新渡戸稲造」のコーナーには当館館長がコメントをよせる予定です。



▲ドイツ留学時代の稲造

#### 〈編集後記〉

冷害が心配された初夏と異なり、暑い8月のお蔭で平年並みの作柄が予想され一安心。太素の森は、エゾゼミ・ヒグラシの蝉しぐれとヤブカンゾウの満開に心が癒されました。

## 新渡戸傳翁命日祭開催

9月27日(火)は、新渡戸傳翁の命日であり、没後134年にあたります。本年も恒例により、太素塚境内において市長をはじめとする太素顕彰会役員ならびに市内有志の参列のもと、新渡戸傳の墓所・太素塚を参拝し冥福を祈ります。



▲新渡戸傳翁

### 活動報告

#### ◆館長講演会

- 7月16日(土) 三八上北・下北地区特定郵便局長会 (十和田市)
- 9月6日(火) 第38回青森県更生保護女性連盟「秋の集い」 (十和田市民文化センター)

#### ◆稲生川上水147年記念企画展「1995～2005 修復完了資料展～10年の成果～」を開催 (詳細3面)

#### ◆光星野辺地西高校インターンシップ受け入れ

7月12日(火)～15日(金)の間、光星学院野辺地西高校から職場体験インターンシップの生徒1人を受け入れました。今回職場体験を行った同校2年生の立花裕美さんは、三本木中学校が行っている職場体験事業「三中トライやる」でも中学2年生の時に当館で仕事を体験しており、その縁から再び当館での研修を希望されたとのことでした。団体への対応補助や館内清掃などの仕事を体験しました。

#### ◆博物館実習生受け入れ

7月19日(火)～29日(金)に北里大学獣医畜産学部4年生土屋直裕さんが、学芸員資格取得にかかわる実習を行いました。(詳細2面)

発行 太素顕彰会  
 十和田市立新渡戸記念館  
 ☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
 TEL (FAX) 0176-23-4430  
 E-mail: mitobemm@hi-net.ne.jp  
 http://www.towada.or.jp/mitobe/  
 印刷 株式会社 岩間印刷